

佳作  
(高校部門)

学習院女子高等科 (東京都) 1年

頼らい香里かおり

あの世つてのはよっぽどいい所らしい。  
だって誰も帰って来ないんだから。

祖母

「人生は何事をも為さぬには余りに長いが、何事かを為すには余りに短い」。作家・中島敦は自身の小説でそう綴っている。三十三歳という若さで他界した彼にふさわしい言葉だと私は思う。

言葉とは発言する人によってその言葉の重みが変わる。「あの世つてのはよっぽどいい所らしい：だって誰も帰って来ないんだから。」祖父が他界して三年程たったお盆の時に祖母は笑いながらそう言った。八十五を過ぎている祖母は子供の頃に戦争を経験し、長い人生で色々な人の死を見てきた。この言葉は祖母にしか言えないと思った。だからこそ、この言葉が忘れられない。

出典

『山月記』中島敦・著 (中島敦著『李陵・山月記』新潮文庫刊)